

○一年間の動向

令和4年の観光客入込数は4,425,168人で前年比107.7%（317,097人増）、宿泊数は1,635,576人で133.5%（410,167人増）、外国人宿泊数は、3,328人で前年比199.3%（1,658人増）であった。

令和4年は、令和3年と比較し、新型コロナウイルス感染症による、まん延防止等重点措置等の行動制限が少なく、観光業界に於いても少しずつ回復に向かう1年となった。

○1月～3月

1月～3月の入込数前年同期比は131.5%

まん延防止等重点措置がとられたことに加え、降水量がコロナ禍前の令和元年と比べ、約2倍と増えたため、入込者数の元年度比は減少（77%）となったが、前年度比は増加であった。

○4月～6月

4月～6月の入込数前年同期比は122.5%

3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなったことや、前年度と比べると平均気温も上昇し、温かく穏やかな気候に恵まれたことあり、増加した。関東ブロックの県民一家族一旅行推進事業が実施されたことも増加に繋がったと思料される。

○7月～9月

7月～9月の入込数前年同期比は119.7%

夏休みにおいても行動制限処置はとられなかった。さらに県民一家族一旅行推進事業が延長されたこともあり、前年度比増加であった。コロナ禍前の令和元年と比較しても、若干の増加（102%）であった。

○10月～12月

10月～12月の入込数前年同期比は86.9%

全国旅行支援（いちご一会とちぎ旅）が実施されたことで、宿泊者数の増加が期待されたが、例年並みの宿泊者数であった。紅葉時期の11月平均気温が前年度比で低かったことが原因と思料される。

○外国人宿泊者

水際対策が緩和されたことにより、前年度比約2倍の増加であった。割合としては、ベトナム、台湾、香港の順に多い。ベトナム人が多い理由としては、ベトナムには四季がなく、日本の四季を感じられる雪景色などを目的とした旅行者が多いことと思料する。

令和4年は、ゴールデンウィークや夏休み等の連休が3年ぶりに行動制限がない年になったこと、さらに県民一家族一旅行推進事業や全国旅行支援（いちご一会とちぎ旅）が実施されたこと、そして、外国人の入国規制が緩和されたことが、町内の観光客入込数、宿泊数の増加に繋がった。